

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(町総括表)  
【単独事業】

市町名	野木町
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
1	老若男女が触れ合いながら集える親水公園づくり	総事業費	1,000,024	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	5,000,024
		うち市町支出額	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000		4,000,000
		うち県交付金	500,000	500,000	500,000	0	0	1,500,000
2	新橋区高齢化対策検討と対策の実施事業	総事業費	940,013	900,000	900,000	900,000	900,000	4,540,013
		うち市町支出額	940,000	900,000	900,000	900,000		3,640,000
		うち県交付金	470,000	450,000	450,000	0	0	1,370,000
3	駅前商店街活性化事業	総事業費	1,036,834	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	5,036,834
		うち市町支出額	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000		4,000,000
		うち県交付金	500,000	500,000	500,000	0	0	1,500,000
4	野木町春まつり	総事業費	1,894,208	1,900,000	2,500,000	1,500,000	2,000,000	9,794,208
		うち市町支出額	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000		4,500,000
		うち県交付金	500,000	500,000	500,000	0	0	1,500,000
5	野木町ふれあい夏祭り	総事業費	615,025	615,000	615,000	615,000	615,000	3,075,025
		うち市町支出額	615,000	615,000	615,000	615,000		2,460,000
		うち県交付金	307,500	307,500	307,500	0	0	922,500
6	野木町駅伝大会	総事業費	990,000	680,000	680,000	680,000	680,000	3,710,000
		うち市町支出額	680,000	680,000	680,000	680,000		2,720,000
		うち県交付金	340,000	340,000	340,000	0	0	1,020,000
7		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
8		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
9		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
10		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
市町計		総事業費	6,476,104	6,095,000	6,695,000	5,695,000	6,195,000	31,156,104
		うち市町支出額	5,735,000	5,195,000	5,195,000	5,195,000	0	21,320,000
		うち県交付金	2,617,500	2,597,500	2,597,500	0	0	7,812,500

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査書)  
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	老若男女が触れ合いながら集える親水公園づくり
事業主体の名称	水辺の楽校応援倶楽部
代表者の名称	長浜 利一
事業主体の所在	〒329-0114 栃木県下都賀郡野木町大字野木540-2
事業主体の概要	・団体の目的: のぎ水辺の楽校周辺の自然保護と環境整備を推進する。 ・設立年月日: 平成24年4月14日 ・構成員等: 地域住民・のぎ学区分館役員・退職教員・地元選出議員・元地主
当該事業に係る地域の現状と課題	○野木町は、ラムサール条約に登録された「渡良瀬遊水池」のほか思川が流れる水自然豊かな町である。そのため、国土交通省の「水辺の学校プロジェクト(※)」の対象となり、散策路等の整備が進められたが、平成21年度の事業仕分けで中断されてしまった。 そこで、自分達の手で、きれいな水辺を活かした(ホタルが飛び交うくらいの)老若男女が集える場所を作りたいと、地元の有志で「水辺の楽校応援倶楽部」を立ち上げ、水路や池の整備、ホタルの幼虫の放流等に取り組んだところ、最近では、ホタル観賞を目的に周辺住民が訪れるようになってきている。 しかし、ホタルが自然発生する段階には至っておらず、水路や散策路も整備半ばであるなど、今後いかにしてホタルが自然発生する段階まで環境を整備し、町民をはじめ町外、県外からも人が集まる場にするかが課題となっている。 ※水辺の楽校プロジェクト…「子どもの水辺」における環境学習や自然体験活動を進めるにあたって河川の整備が必要な場合に、自然の状態を極力残しながら瀬や淵、せせらぎ、ワンド等の自然環境を保全・復元するとともに、子どもたちが安全に自然に出会えるよう河岸等へのアクセス性の改善(水辺に近づける河岸整備)、管理用通路の整備等を行うもの。 ○平成28年度には、ゲンジボタルの幼虫やカワニナを放流したところ、ホタルの発生が確認できた。今後とも、希少植物や野生動物も数多く生息している当該地の自然環境を守り、児童の学習や人々の触れ合いの場として幅広く活用できる公園づくりを実現したい。
事業目的	・地域資源を活用し、ホタルが自然発生する環境を整備する。 ・町民に「自然が豊かで住みやすい街」として認識してもらう。 ・町外、県外から観光客を呼び込む。 ・自然環境の保全管理を行う。 ・イベント開催による地域活性化を図る。 ・児童への学習の場の提供を行う。
事業概要	【平成29年度】 整備半ばである水路等の整備やホタルが自生する環境づくりを継続するほか、今年度は周辺へのPRを強化する(下線部)。 《環境整備》 ○ホタルの飛び交う環境づくり ・ゲンジボタルの幼虫や、カワニナ(ホタルのエサ)を放流する。 ・年5回程度専門家からホタル養殖技術現地指導を受ける。 (専門家…30年以上にわたる水辺の動植物に関するフィールドワークを行う) ○水路の整備…開発半ばとなっている「のぎ水辺の楽校」に、湧き水を流す水路を作る。 ○散策路の整備…池及び周辺にある水生植物の成長を見守り、訪れた人々が四季に応じた植物を楽しめるよう散策路を整備する。 ○湿原の整備…水鳥や猛禽類を観察できるよう、湿原の環境整備を行う。 《町民へのPR》 ○近隣の小中学校との連携(平成29年8月、平成30年2月) 児童、生徒が自然観察や総合的な学習など、体験的な学習を行う場にしてもらう。 《人を呼び込む》 ○ホタル祭りの開催(平成29年6月10日(土)、11日(日)) ホタルの観察、各種飲食屋台の出店 ○PR活動 ホタル祭りのチラシを2,000枚、ポスターを1,000枚作成し、町内各所及び古河市内、JR野木駅、JR古河駅に配布するほか、野木町HPにおいてPRする。 【平成30年度】 概ね前年度と同様
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【数値目標】野木町を暮らしやすいと感じている町民の割合 現状値: 59.0%(H27調査) → 目標値: 70.0%(H31調査) 【5年調査のため、平成28年度実績の記載無し】 【KPI】観光入込客数 現状値116,491人(平成26年度) → 目標値186,491人(平成31年度)【H28実績206,000人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①水路の整備 ②ホタルの幼虫放流 ③散策路の整備 ④湿原の環境整備 ⑤小、中学生の自然観察などの学習環境の整備 ⑥ホタル祭りの開催	①水路の整備 ②ホタルの幼虫放流 ③散策路の整備 ④ホタル祭りの開催 ⑤小、中学生の自然観察などの学習環境の整備 ⑥ホタル祭りの開催	①水路の整備 ②ホタルの幼虫放流 ③散策路の整備 ④湿原の環境整備 ⑤小、中学生の自然観察などの学習環境の整備 ⑥ホタル祭りの開催		①水路の整備 ②ホタルの幼虫放流 ③散策路の整備 ④湿原の環境整備 ⑤小、中学生の自然観察などの学習環境の整備 ⑥ホタル祭りの開催
事業費	1,000,024	1,000,000	1,000,000	3,000,024	1,000,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	1,000,000
うち県交付金	500,000	500,000	500,000	1,500,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	24	0	0	24	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部生活環境課人権・協働推進係
担当者名	井上 大輔
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	inoue01@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	新橋区高齢化対策検討と対策の実施事業
事業主体の名称	新橋区高齢化対策検討会
代表者の名称	檜山 金哉
事業主体の所在	〒329-0101 野木町友沼5313-9
事業主体の概要	<p>・団体の目的: 高齢化社会に如何に対応していくか、公助を含め自助、共助による明るい地域社会の構築を目指す。</p> <p>・設立年月日: 平成24年10月20日</p> <p>・構成員等: 新橋区役員、区内自治会長、区内民生委員、老人クラブ、一般区民、野木町健康福祉課、政策課、社会福祉協議会</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>新橋区は、昭和57年10月に入居が始まり、野木町の1区として現在人口4,300人弱、約1,650戸が立ち並ぶ閑静な住宅地である。</p> <p>当区は東京に通勤するサラリーマンが主体となっており、団塊の世代がその主力である。</p> <p>これらの人々が高齢者になる5年後10年後には、高齢化率がそれぞれ37.8%、51.7%と県内でも他に類を見ない高齢者の地域と成る事が想定されている。</p> <p>高齢化の進行により、独居世帯や高齢者夫婦世帯の増加、自治会等の地域活動の停滞といった従来からの課題に加え、認知症発症者の増加が想定されるため、認知症に対する対策が喫緊の課題である。</p>
事業目的	<p>・高齢者が、住み慣れた地域で、生きがいをもち、安全かつ安心して暮らせる明るい地域社会の構築を目指す。</p> <p>・認知症の発症を予防し、また、仮に認知症を発症した場合でも自助、共助、公助により安心して暮らせる地域社会の構築を目指す。</p> <p>・将来的には、「高齢者になって安心して暮らせる地区」「高齢者は多いが皆元気で、地域の人たちが(外で遊ぶ)子どもの顔顔を見てくれる地区」として若い世代に選ばれる地区にする。</p>
事業概要	<p>【平成29年度】</p> <p>検討会では、宇都宮大学内教授、佐野市NPO 風の詩副理事長長永島先生の指導のもとアクションプランを作成し、そのプランに従って地域づくりを実施している。</p> <p>アクションプランに沿った地域づくりを継続する中でも、認知症対策については特に対策を強化推進していく。</p> <p>(高齢者が安心して暮らせる明るい地域の構築)</p> <p>○事業検討会</p> <p>アクションプラン実行の検討会を毎月実施する他、年2回の活動報告会を開き、取組状況の報告とともに宇都宮大学の内閣教授に活動に対するアドバイスをもらう。</p> <p>○高齢者見守りシステムの構築(随時)</p> <p>検討会メンバーを中心として独居高齢者の見守り活動、交通量の多い交差点での注意喚起、地区の見回りを行うほか、高齢化対策の先進地視察や、老人介護の研修等に参加する。</p> <p>○高齢者生活支援事業の周知と促進(随時)</p> <p>検討会メンバーが自力での生活が困難な高齢者に対する生活支援、本事業の周知を行う。</p> <p>○新橋祭の見直し(平成29年8月26日(土))</p> <p>高齢化で担い手不足に陥む地域行事を、高齢者と地区の小・中学生が関わっていくものとする。(イベント運営会社に入ってもらい、会場設営や内容を見直す等)</p> <p>○地域防災・防犯・交通安全活動の推進</p> <p>地区住民に対する「避難所マップ」の配布に加え、高齢者世帯の災害時のサポート体制を構築する。</p> <p>高齢者を狙った空き巣や特殊詐欺などについて、防犯講習会を実施して防犯意識の向上に努める。</p> <p>高齢者を対象とした自転車運転講習会を実施し、高齢者の交通事故削減に努める。</p> <p>(認知症対策)</p> <p>○認知症は、家に引きこもりがちで他人と関わる機会が少ない人ほど発症しやすいと言われることから、地域の人と触れ合う場(機会)を設ける。</p> <p>○自由参加型サロン「街かどカフェすまいる」の運営(月曜日から金曜日の10:00~15:00(土日定休))</p> <p>独居の高齢者などが、気軽に立ち寄り、様々な人と触れ合える場をつくる。</p> <p>○ボランティア活動等への参加促進(随時)</p> <p>美化活動などのボランティア活動やクラブ活動(ゲートボールなど)に積極的に参加することにより、他人と触れ合う機会をつくる。</p> <p>○認知症に対する理解促進講座(年2~3回)</p> <p>区内の老人会と連携して区民全体を対象にした認知症講座を実施し、認知症について正しく理解してもらうことにより、認知症の方やその家族が安心して地域づくりになる。</p> <p>・認知症の症状を減らすための効果的な方法など認知症予防(講師:認知症専門医)</p> <p>・家族が認知症になった場合にどう対処すればよいか、家族による介護など(講師:風の詩副理事長長永島先生)</p> <p>(広報活動の推進)</p> <p>○高齢化対策検討会の活動だけでなく、新橋区や区内自治会の活動を広く区民に知らせるため、「新橋区ふれあい通信」を年3回発行し全区民に配布するほか、町のHPにも掲載し、高齢者になっても安心して暮らせる地域をPRする。</p> <p>【平成30年度】</p> <p>上記の取組を継続するほか、認知症に対する理解促進講座については、開催時期や回数について区民へのアンケートを実施し、開催方法を検討していく。</p> <p>また、活動内容の広報について、自前のHPやSNSの作成を検討し、広く町外(県外)への周知に努める。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり</p> <p>【数値目標】流入(移住・交流)人口 117,495人(平成26年度) → 187,495人(平成31年度)【H28実績206,000人】</p> <p>【基本目標4】時代にあった地域づくり</p> <p>【KPI】まちづくり(協働のまち)の満足度 現状値:0.11点(平成26年調査) → 目標値:0.30点以上(平成31年調査)【5年調査のため、平成28年度実績の記載無し】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の事業費計	支援期間の翌年度	
事業内容	<p>①自由参加型サロン「街かどカフェすまいる」の利用促進</p> <p>②災害時支援マップの作成</p> <p>③高齢者見守りシステム等、交通安全・防犯活動の強化</p> <p>④高齢者生活支援事業の周知と促進</p> <p>⑤社会参加(ボランティア活動等)への促進、クラブ活動への参加促進</p> <p>⑥地域イベント(新橋祭)の見直し</p> <p>⑦地域防災活動の推進</p> <p>⑧認知症の人とその家族が住みやすい地域づくり、区民の認知症に対する理解の促進</p> <p>⑨高齢化対策検討会の内容の区民への広報活動</p>	<p>①高齢者の間にこもりの解消(新橋祭の見直し、ふれあいサロン、自由参加型サロン「街かどカフェすまいる」の活性化)</p> <p>②安全・安心見守りネットワークと連携した災害時支援マップの作成</p> <p>③区民を対象とした全戸アンケート調査結果から出された新規課題のアクションプランに基づき検討</p> <p>④新橋区広報紙「ふれあい通信」による高齢化対策検討会の状況、現在実施中の施策、及び新橋区の諸活動の広報活動</p> <p>⑤認知症への理解を深めるため、区・自治会役員、および区民への研修会を開催</p> <p>⑥区民への交通安全講習会、空き巣・特殊詐欺に対する講習会の開催</p> <p>⑦区役員・自治会長への防災研修、及び区民を対象とした総合防災実習訓練の実施</p> <p>⑧過去年度に実施した各施策の検証と改善の実施</p>	<p>①自由参加型サロン「街かどカフェすまいる」の利用・運営の改善</p> <p>②災害時支援マップの完成と支援体制確立</p> <p>③区民への安全・防犯意識向上策の推進</p> <p>④自治会活動のあり方について継続検討</p> <p>⑤認知症サポート一斉育成強化と支援体制の確立</p> <p>⑥過去年度に実施した各施策の見直しと改善</p> <p>⑦広報紙に加え、HP作成による情報発信の強化</p>			
事業費	940,013	900,000	900,000	2,740,013	900,000	
市町支出金(アウト事業分)	940,000	900,000	900,000	2,740,000	900,000	
うち県交付金	470,000	450,000	450,000	1,370,000		
市町支出金(ハート事業分)				0		
うち県交付金				0		
その他自主財源等	13	0	0	13	0	

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生部生活環境課人権・協働推進係
担当署名	井上 大輔
電話	0280-67-4132
FAX	0280-67-3945
E-mail	inoue01@town.nogaki.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)  
【単独事業】

市 町 名	野木町
事 業 名	駅前商店街活性化事業
事業主体の名称	のぎまちづくりネットワーク
代表者の名称	浜田 敏路
事業主体の所在	〒329-0101 栃木県下都賀郡野木町友沼4640-39
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体の目的: 野木町駅前周辺の活性化を図る。</li> <li>設立年月日: 平成21年4月28日</li> <li>構成員等: 野木町在住のまちづくりに興味あり、趣旨に賛同した方 15名</li> </ul>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>地方を中心に少子高齢化・人口減少が進行する中、野木町でも、かつて賑わいを見せていた野木町前の商店街が閑散としており、「野木駅前周辺の商店街を元気にしてほしい」との声が上がっていた。そこで、平成21年「のぎまちづくりネットワーク」を立ち上げ、商店街への人の流れをつくるべく、年2回「のぎの楽市『えんにち』」を開催したところ、1000人を超える来場があった。以降、毎年内容を変え開催しており、昨年度開催した「ビールまつり」では2000人を超える入出があるなど、回を追うごとに来場者数が増えてきている。</p> <p>しかし、来場者が増えたと言っても、まだイベント時に町内で盛り上がりつつあるのみであるため、いかにしてイベント以外でも人が行き交う状態をつくり、外からも人を呼び込むかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅前通り商店街に町内外から人を呼び込む。(1年に複数回、さらに毎年野木町を訪れてもらう。)</li> <li>イベントに地域資源を活用し、若い世代の郷土愛を醸成する。</li> <li>町内外に向けて「にぎりと光る」元気なまちをアピールし、移住を促す。</li> <li>町民提案型のプラットフォーム事業として推進するため広く町民に協働のまちづくりを理解していただくきっかけになる。</li> <li>定期的に駅前通り商店街にお客を呼び込みにぎわいができる。</li> <li>町内外に「にぎりと光る」元気なまちをアピール出来、経済効果も期待できる。</li> </ul>
事業概要	<p>【平成29年度】 年々来場者が増加している「えんにち」を開催するほか、下線部の内容を追加実施する。 ○のぎの楽市「えんにち」 ※年2回開催 [1回目]ビールまつり(平成29年9月2日(土))…生ビール販売、各種屋台による飲食物販売、パフォーマンス等の披露 [2回目]子ども広場、地域マルシェ、子どもお化け屋敷(平成30年3月中旬頃)…各種屋台による飲食物販売、パフォーマンス等 ○「えんにち」開催準備、内容検討 ※来場者を増やす工夫、リピーターを飽きさせない工夫 全国各地のイベントに出張し、「えんにち」のステージの出演者を探す。 ○乗客(広告・宣伝) 読売新聞(とちぎ読売)、下野新聞に広告を掲載するほか、渡良瀬遊水地周辺の地域情報誌「ワッセ」(8月号・2月号)及び小山市周辺の地域情報誌「シャローム」(2月号)の広告欄にてPR、チラシ・ポスターを計10,000枚作成し、JR小山駅やJR古河駅に配布。ほかに、近隣市町の観光協会に打診し、それぞれで開催する祭りとのチラシ相互配布を行う。 ○来場者に対し、野木町の魅力PR…町の魅力や概要がわかるパンフレットや(年間を通じて来町しなくなるような)他の時期のイベントパンフレット、るぶ野木版の配布を行う。 ○商店マップの見直し…見づらく、内容も乏しいため、見直しを行う。 ○駅前臨時案内所の開設…ひまわりフェスティバル開催時、案内を行う。 【平成30年度】 ・平成29年度までの内容を踏まえ、さらなる来場者数の増加が見込めると思われる内容で開催する。 ・「えんにち」のさらなる周知を図るため、HPやFacebookの開設を検討 ・駅前に散在する空店舗について、手始めとしてひまわりフェスの際に臨時で開設している駅前観光案内所の常設化を検討。 将来的には、若者の起業支援や店舗運営体験(例えばカフェや雑貨屋、その他飲食店等)ができるような仕組みをつくる予定。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>野木町総合戦略の8プロジェクトで「高齢対策プロジェクト」「水と緑と歴史のまちづくりプロジェクト」等の目標戦略と合致する 【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【KPI】 観光入込客数 現状値: 116,491人(平成26年度) → 目標値: 186,491人(平成31年度)【H28実績206,000人】 転入者数 (H26)社会増減数8人の転入超過 → (H27~H31の5年間で)社会増減数180人の転入超過【H28実績値 2人】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①楽市の開催(年2回) ②屋外子ども劇の検討 ③商店マップの見直し ④駅前案内所臨時開設 (ひまわりフェスティバル他)	①楽市の開催(年2回) ②屋外子ども劇の開催 ③商店マップの活用 ④駅前案内所臨時開設 (ひまわりフェスティバル他)	①楽市の開催(年2回) ②屋外子ども劇の開催 ③商店マップの活用 ④駅前案内所臨時開設 (ひまわりフェスティバル他)		①楽市の開催(年2回) ②屋外子ども劇の開催 ③商店マップの活用 ④駅前案内所臨時開設 (ひまわりフェスティバル他)
事業費	1,036,834	1,000,000	1,000,000	3,036,834	1,000,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	1,000,000
うち県交付金	500,000	500,000	500,000	1,500,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	36,834	0	0	36,834	0

市町担当情報	
担当課(グループ・係)名	町民生活部生活環境課人権・協働推進係
担当者名	井上 大輔
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	moue01@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)  
【単独事業】

市 町 名	野木町
事 業 名	野木町春まつり
事業主体の名称	野木町春まつり実行委員会
代表者の名称	委員長 真瀬 宏子
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町役場産業課商工観光係内」
事業主体の概要	団体の目的:桜が開花する時期に祭りを開催することにより、町民相互の交流とコミュニティの活性化を図る。 また、桜を中心とした町内の各種まつりをPRすることにより、地域の活性化に寄与することを目的とする。 設立年月日:平成27年1月21日 構成員等:町観光協会、町工協協会、商工会、地元区長、野木神社宮司 等 計19名
当該事業に係る地域の現状と課題	栃木県内のほとんどの市町で人口減少傾向が続く中、野木町も年々人口が減少している状況にある。これまで、人を呼び込むためのイベントとして、「夏のひまわりフェスティバル」「秋の産業祭」「冬の駅前のイルミネーション」と季節に応じた開催してきたが、春のみ目立ったイベントがなかったことから、平成27年度、それまで春の同時期に行われていた伝統行事と町内に点在する桜の名所の観光を促進するイベントとして「春まつり」を開催した。春まつりの開催前はこの時期に大きな交流人口の増加はなかったが、春まつり初年度である平成27年度は、町内外から2,000人が訪れるなど、好評を博した。しかし、まだ開催2年目で知名度が高くないことから、今後いかして「外から人を呼び込むか」「来場者に野木町の魅力を知ってもらい、年間を通して訪ねてもらおうか」「ゆくゆくは移住定住につなげていくか」が課題となっている。
事業目的	・町外(県外)から野木町を訪れてもらうきっかけをつくる。 ・年間を通して野木町を訪れてもらうきっかけをつくる。 ・将来的に野木町に移住定住してもらうきっかけとなるよう、来場者に町の魅力を知ってもらう。
事業概要	【平成29年度】 《野木町を訪れるきっかけ》 第3回のさくらまつりを開催し、今年度は下線部を追加実施し、さらなる集客を図る。 ◎さくらまつりの開催(平成29年4月1日(土)) ・さくらまつり(平成29年4月1日(土)、野木町総合運動公園) 町内外の各種団体によるステージイベント、ふれあい模擬店、打上花火 ・よしずり体験会(平成29年4月1日(土)、野木町総合運動公園) 野木町を代表する特産品であり、「のぎブランド」の1つでもあるよしずり体験会を開催 ・ささら獅子舞(平成29年4月8日(土)・9日(日)、野木町大字野渡 熊野神社)→野渡地区住民による獅子舞の演舞、山車巡り ・春神楽(平成29年4月9日(日)、野木神社)→太々神楽の披露 ○集客 広報紙や町HPへの掲載。チラシ(2,400枚)ポスター(500枚)を町内、JR宇都宮線沿線の駅(主に小山駅、古河駅)に設置。 ○次回さくらまつり準備 平成30年度の野木町春まつりの実施に関する備品等の購入及びポスター作成(平成30年2月まで) 《野木町の魅力を知ってもらう》 来場者に対するPRとして、町観光協会が発行している観光・移住促進パンフレットを配布し、野木町の魅力をアピールする  【平成30年度】 前年度と同様の取り組みに加え、以下の事業を実施する。 ○来場者アンケートの実施 改善点、来場理由(○〇を見て)等を記載してもらい、次年度以降の内容検討につなげる ○集客方法の見直し 町外(県外)からの集客を強化するため、Yahooやるるぶの祭り特集HPへの掲載を試みるほか、チラシ及びポスターを設置する範囲を広げる。(JR宇都宮沿線の栗橋駅や久喜駅等) ○熱気球体験会の実施 町のマスコットキャラクターである「のぎのん」が描かれた熱気球に乗り込むことができる体験会を実施する
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【KPI】観光入込客数 現状値:116,491人(平成26年度) → 目標値:186,491人(平成31年度)【H28実績206,000人】 【基本目標4】時代に合った地域づくり 【数値目標】野木町に住み続けたい、住み続けると思う人の割合 現状値:80.7%(平成26年調査)→目標値:90.0%(平成31年調査)【5カ年調査のため、平成28年度実績の記載無し】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①さくら祭り ②ささら獅子舞 ③春神楽 ④次回春まつり準備	①さくら祭り ②ささら獅子舞 ③春神楽 ④次回春まつり準備	①さくら祭り ②ささら獅子舞 ③春神楽 ④次回春まつり準備		①さくら祭り ②ささら獅子舞 ③春神楽 ④次回春まつり準備
事業費	1,894,208	1,900,000	2,500,000	6,294,208	1,500,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,500,000	1,000,000	1,000,000	3,500,000	1,000,000
うち県交付金	500,000	500,000	500,000	1,500,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	394,208	900,000	1,500,000	2,794,208	500,000

市町担当情報	
担当課(グループ・係)名	町民生活部生活環境課人権・協働推進係
担当者名	井上 大輔
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	inoue01@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	野木町ふれあい夏祭り
事業主体の名称	野木町ふれあい夏祭り実行委員会
代表者の名称	実行委員長 古澤 清一郎
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町教育委員会事務局生涯学習課内」
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の目的:郷土芸能の保存及び町民同士の親睦を深める。</li> <li>・設立年月日:平成22年7月16日</li> <li>・構成員等:野木町おはやし保存会連絡会、野木町子ども会連合会、野木町女性団体連絡協議会、野木町レククラブ、野木町文化協会民謡舞踊部、野木町民の歌保存会、野木町生涯学習ボランティア連絡会、よさこい野木ひまわり、市川善英由会、野木中学校吹奏楽部、野木町スポーツ推進委員会、野木町ボランティア支援センター「きらり館」利用者協議会ほか団体多数</li> </ul>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>野木町では、かつて町内の各地区に「おはやしの会」があり、地域行事等でおはやしを披露することが盛んに行われていたが、平成以降、会員の高齢化に伴い、活動が縮小もしくは停止している状況となっていた。また、野木町民の歌として「野木町音頭」があるが、町民への認知度は高いとは言えない状況にあった。</p> <p>そこで、平成10年、伝統文化の継承を目的として「おはやしの教室」を始め、さらに、平成22年からはおはやしや野木町音頭を再評価し定着させようという動きから、野木町ふれあい夏祭りを開催してきた。当初は、おはやし教室に参加した子どもたちの発表や、大人と子どもが日光和楽踊り・野木町音頭と一緒に踊るなどしていたが、現在では参加団体も増え、よさこい、フラダンス、三味線、中学生の吹奏楽や模擬店数など、第1回の倍以上の出店になった。</p> <p>しかし、少子高齢化という根本的な問題が解決していないことから、今後いかにして外から人を呼び込み伝統行事を継続していくかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の伝統文化・芸能を若い世代に継承していく。</li> <li>・野木町を訪れるきっかけをつくる。</li> <li>・将来的に野木町に移住定住してもらおうきっかけとなるよう、来場者に町の魅力を知ってもらう。</li> <li>・子どもから大人(高齢者)までボランティアが盛んな町、さらには「生涯活躍のまち」として町外にアピールする。</li> </ul>
事業概要	<p>【平成29年度】 《野木町を訪れるきっかけ》 ○ふれあい夏祭りの開催(平成29年8月26日(土)) ※H28来場者2000人程度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓(おはやし)教室受講生の発表…町内の中学生が練習の成果を披露</li> <li>・おはやしの模範演奏…おはやし保存会会員による模範演奏</li> <li>・野木町音頭、日光和楽踊り…町民の歌である野木町音頭に合わせた踊りや日光和楽踊りの披露(誰でも参加可)</li> <li>・子ども広場(レクゲーム、遊びのコーナー)…来場した子どもに楽しんでもらうため、スタンパリーや各種ミニゲームを実施</li> <li>・イブニングコンサート…野木中学校吹奏楽部の学生によるコンサート</li> <li>・食のコーナー…野木ブランド品の販売や各種模擬店の出店</li> <li>・体験コーナー…よさこいやうちわ作りの体験ができるコーナー</li> <li>・うちわ配布…夏祭り記念うちわのプレゼント</li> </ul> <p>○おはやし教室の開催(年4回) 野木町おはやし保存会の方を講師として呼び、中学生を対象におはやし教室を開催する。</p> <p>○集客 広報紙や町HPのほか、野木町観光協会HPで周知する。 また、チラシ(2,000枚)ポスター(200枚)を町内各所のほか、古河市役所、結城市役所に設置する。</p> <p>○来場者アンケートの実施 改善点、来場理由(○を見て)等を記載してもらい、次年度以降の内容検討につなげる。</p> <p>《野木町の魅力を知ってもらう》 ○町の魅力が掲載された各種パンフレットを会場出入口等(人目につく場所)に設置する。</p> <p>【平成30年度】 前年度と同様の取り組みに加え、以下の事業を実施する。 ○町ボランティア支援センターとの共同実施 本事業は、町ボランティア支援センター「きらり館」との共催でもあるため、中学生から大人(高齢者)までボランティア有志による運営を行う。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【KPI】観光入込人数 現状値:116,491人(平成26年調査) → 目標値:現状より70,000人の増加(平成31年度)【H28実績206,000人】</p> <p>【基本目標4】時代に合った地域づくり 【数値目標】野木町に住み続けたい、住み続けると思う人の割合 現状値:80.7%(平成26年調査) → 目標値:90.0%(平成31年調査)【5ヶ年調査のため、平成28年度実績の記載無し】</p>

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①太鼓(おはやし)教室受講生の発表 ②おはやしの模範演奏 ③野木町音頭、日光和楽踊り ④子ども広場(レクゲーム、遊びのコーナー) ⑤イブニングコンサート ⑥食のコーナー(模擬店等) ⑦体験コーナー(よさこい体験、うちわ作り等) ⑧うちわ配布	①太鼓(おはやし)教室受講生の発表 ②おはやしの模範演奏 ③野木町音頭、日光和楽踊り ④子ども広場(レクゲーム、遊びのコーナー) ⑤イブニングコンサート ⑥食のコーナー(模擬店等) ⑦体験コーナー(よさこい体験、うちわ作り等) ⑧うちわ配布 ⑨来場者アンケート実施 ⑩町のPRコーナー設置	①太鼓(おはやし)教室受講生の発表 ②おはやしの模範演奏 ③野木町音頭、日光和楽踊り ④子ども広場(レクゲーム、遊びのコーナー) ⑤イブニングコンサート ⑥食のコーナー(模擬店等) ⑦体験コーナー(よさこい体験、うちわ作り等) ⑧うちわ配布 ⑨来場者アンケート実施 ⑩町のPRコーナー設置		
事業費	615,025	615,000	615,000	1,845,025	615,000
市町支出金(ソフト事業分)	615,000	615,000	615,000	1,845,000	615,000
うち県交付金	307,500	307,500	307,500	922,500	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	25	0	0	25	0

担当課(グループ・係)名	町民生活部生活環境課人権・協働推進係
担当者名	井上 大輔
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	inoue01@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	野木町駅伝大会
事業主体の名称	野木町駅伝大会実行委員会
代表者の名称	委員長 真瀬 宏子
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町教育委員会事務局生涯学習課内」
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の目的: 生涯スポーツの普及と振興を図る</li> <li>・設立年月日: 平成28年7月中(予定)</li> <li>・構成員等: 野木町体育協会23加盟団体、スポーツ関係団体、職員</li> </ul>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>野木町は、「1人1スポーツ」というスローガンのもと、町体育協会加盟の23団体、元気の出るスポーツクラブのぞき、町体育施設、学校体育施設の定期利用団体等を中心に、年間延べ241,000人が何らかのスポーツ活動をしているなど、スポーツが盛んな町である。さらなるスポーツ振興のため、町では昭和46年から、子どもから大人までがタスキをつなぐ駅伝大会を開催し、日頃の練習の成果を発揮する場を設けてきた。</p> <p>しかし、野木町でも少子高齢化・人口減少が進み、子どもの部を中心に参加者の減少が懸念されているほか、近年では、ランニング=つらい=やらない子どもが増え、子どもの体力低下も懸念されている上、スポーツが盛んな町とはいえ、中高年も加齢とともに日常的な運動から離れつつある。そのため、いかにして参加者の減少を食い止めるとともに、子どもから大人まで生涯スポーツの普及を図っていくかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯スポーツの1つとしてランニングを推進する。</li> <li>・子どもから大人まで、日常的にランニングを行う町にする。</li> <li>・ランニングの指導体制をつくる。</li> <li>・子どもの教育にいい町、子どもから大人まで健康で生き生きしている町として、移住定住先に選ばれる町になる。</li> </ul>
事業概要	<p>【平成29年度】 駅伝大会の開催のほか、日常的な運動促進のため、ランニング教室や講習会を開催する。 駅伝大会 開催日: 平成30年1月21日(日) 会場: 町内東側を一周するコース 内容: 中学生男子・一般男子・壮年男子の部 16.1Km(7区間) 小学生男女・中学生女子・一般女子の部 10.9Km(5区間)</p> <p>○ランニング教室の開催(10~2月、月2回程度) ※子ども対象 町内の関係団体にボランティアで講師を依頼。「走ることの楽しさ」を伝え、日頃から走る習慣をつけ、体力作りをするともに、駅伝大会への参加を促す。</p> <p>○ランニング講習会(10~2月、月2回程度) ※大人対象 町内の関係団体にボランティアで講師を依頼。正しい姿勢での走り方やタイムの向上について講習を行い、駅伝大会へ(指導体制をつくる) ランニング教室やランニング講習会のため、指導者を育成する。</p> <p>○研修会の開催(10~2月、月2回)・・・ランニング教室やランニング講習会の講師を育成する。 ○講習会の開催(10~2月、月2回)・・・スポーツ推進委員の資質向上を図る。 ※基本的には、上記ランニング教室に併せる形で開催を検討 【PR】ランニング教室や講習会は、町外からの参加も可能とし、広報紙、ホームページで募集する。 【平成30年度】 概ね前年度と同様</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【数値目標】野木町を暮らしやすいと感じている町民の割合 現状値: 59.0%(平成27年調査) → 目標値: 70.0%(平成31年調査)【5か年調査のため、平成28年度実績の記載無し】 【KPI】まちづくり(教育のまち)の満足度 現状値: 0.29点(平成26年調査) → 目標値: 0.45点以上(平成31年調査)【5か年調査のため、平成28年度実績の記載無し】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	野木町駅伝大会	野木町駅伝大会	野木町駅伝大会		野木町駅伝大会
事業費	990,000	680,000	680,000	2,350,000	680,000
市町支出金 (ソフト事業分)	680,000	680,000	680,000	2,040,000	680,000
うち県交付金	340,000	340,000	340,000	1,020,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	310,000	0	0	310,000	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部生活環境課人権・協働推進係
担当者名	井上 大輔
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	inoue01@town.nogi.lg.jp